

女川町復興まちづくり住民説明会（旭が丘集会所） 議事録

日 時：平成24年1月29日（日） 16：00～18：00

場 所：旭が丘集会所

対象者：

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員

水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂氏

1.挨拶 須田町長

2.資料説明：復興対策室 柳沼参事

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
 - ・災害公営住宅整備事業
 - ・防災集団移転促進事業
 - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- Q. 鷲神のマリンパルと女川高校の中間地点に住んでいるが、どの辺まで警戒区域になるのか。
- A. 高台移転に伴って、災害危険区域の設定・建築の制限をやることを基本方針として考えている。詳細はこれから詰めていく。ただ、国道で持ってきたラインから堀切山側までの間ということが言えると思う。
- Q. 町が土地の買入れ価格を示さなければ居住地を決められない。二束三文で買い上げられるのは困る。
- A. 土地鑑定等の客観的評価の裏付けがあって、国がお金を出す。鑑定にあたっては、正当な将来の評価をしてもらえるように努力する。
- Q. 銀行、郵便局等の移転地はどこになるのか。
- A. 商業集積地にと考えている、病院の一番下あたりで考えている。
- Q. 24年度前半に用地取得し、工事を進めることになると思うが、他地域での入札不調の報道を聞く。その心配はないのか。
- A. 公の発注なので、それなりの手順と、公開性・公平性を保った中でやる。早く事業着手に進むことが大切。多様な形で対応できるよう準備していく。
- Q. 仮設住宅は基本的に2年だが、最大でどれくらいまで伸びるのか。
- A. 仮設住宅は1年ごとの延長で対応できると思う。借り上げ仮設住宅については国の方針が出されていない。最低限の期間対応できるように引き継ぎ要請していく。
- Q. 借り上げ住宅で1年間ぐらい延長になるかもしれない。それでもまだ解決できない場合は仮設に入居できるということか。
- A. 現在仮設への入居待ちが30件ほどあるが仮設の増設予定はない。全体の計画を早く進めることが必要。借り上げ仮設の期間延長がされない場合については、議会とも相談しながら、困ることが無いように対応していく。
- Q. 前にいた場所に住みたいという方が相当数いると思う。そういった場合にその周辺の高台に、10戸でも20戸でも災害公営住宅を建設する考えはあるか。
- A. 今の段階で細かくということは想定していない。30戸から50戸ということはあると思う。将来的なことを考えると細かい配置は厳しい。
- Q. 土地を買い取ってもらう場合、名義変更は先にしていたほうがいいのか。そのままでも買い取ってもら

えるのか。登記など費用もかかるし、なるべく有利な方法でお願いしたい。

A. 買い上げについては、名義変更は必ず必要。ただ、それについては手伝えるものは手伝いたい。

Q. 鉄道の話はどこまで進んでいるのか。

A. 渡波までは、年度内復旧。女川駅については、場所の決定により、具体化していく。2年以内の復旧を目指したい。

Q. JR線のトンネルはどのようなになるのか。

A. JRは基本的に被災したトンネルは使わないのがルールと聞いている。地域の必要性を考えて、再利用するという返事もらっている。

Q. 道路について、国道398号線のほかにという考えはあるのか。

A. 外との繋がりと、地域内の孤立をなくす道路整備を考えている。

万石浦の南側、北側にちゃんとした道路が2本。半島道路は県で計画を進めている。北浦側、318のリアスブルーラインの抜本的な整備を県に要請している。ライフル射撃場から経が森線については前倒しで、27年らいまでの整備を要請している。県道石巻雄勝線は拡幅する予定。清水を上がって雄勝峠に抜ける林道については緊急用の道路としての整備を相談している。

高台造成により、各地区の災害時の連絡路の整備も検討を進めている。

以 上